上流の民・下流の民の交流・連携
水源の里を守ろう木曽川流域 みん・みんの会
ニュース
20号
2023.11.22

上流は下流を思い、下流は上流に感謝する！

☆12月3日（日）午後１時開場、１時半から「ソーネ・おおぞね」ホールで、みん・みんの会の第１３回総会を開催します。会員の皆さん、ご参加ください。

続いて、午後２時 30 分前後から木曽川上下流交流・連携の集いを行います。

＊ソーネおおぞね：大曽根駅下車、徒歩 10 分。名古屋市北区山田町２-11－62　大曽根住宅１棟１階

総会では①2022 年度活動報告　②2022 年度会計報告（収支決算）　③「木曽川流域水源の里基金」の報告と今後の運用　④2023 年度活動計画　⑤2023 年度予算などを報告・提案します。

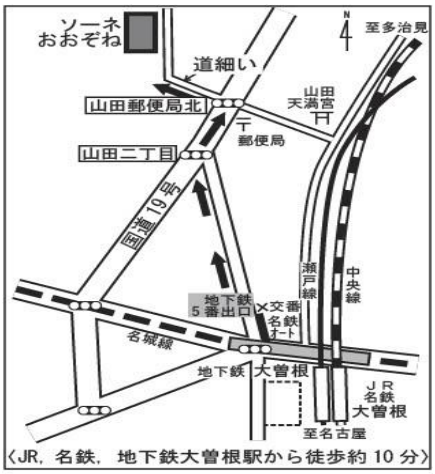
「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉にして、木曽川流域（木曽川、飛騨川、愛知用水）の上下流交流・連携を目的に「水源の里を守ろう　木曽川流域みん・みんの会」を始めました。2008 年９月 13 日に第１回「水源の里を守ろう　木曽川流域集会」を開催してから、2023 年９月で 15 周年を迎えました。“歩み続ける”ことができたのは、皆様のご支援ご協力の賜物です。深く感謝申し上げます。

15 周年の節目として、今回は午後２時 30 分前後から４時半まで、15 周年記念の「木曽川上下流交流・連携パネルディスカッション」を行います。

パネラーは圃中登志彦さん（木祖村観光協会）、唐沢尚之さん（木曽町・小池糀店）、山根みちよさん（愛知池友の会）、杉原航さん（名古屋生活クラブ）、河﨑典夫（みん・みんの会）です。木曽川上下流交流・連携を取り組んできた中での、課題や感じておられることなどを語り合って、これからの「糧（かて）」にしていきたいと考えています。

参加費は資料代などで 800 円です。よろしくお願いします。

（事務局）



ソーネ・おおぞね
名古屋市北区山田町 2-11-62
大曽根住宅 1 棟 1F
TEL：052-910-1001

上流と下流がお互いに理解し、支え合う社会の構築が必要

圃中登志彦（一般社団法人木祖村観光協会　専務理事）

私は、15 年前、この会を発足するにあたってきっかけとなった当時の長野県木祖村名古屋出張所の初代所長（現在、木祖村観光協会専務理事）であった圃中登志彦（ﾊﾀﾅｶﾄｼﾋｺ）です。木曽川流域みん・みんの会の皆様には、この 15 年間、木曽川上流の大地（木曽地域）に深く根をおろしていただき、名古屋生活クラブ様をはじめとする木曽川下流域での幅広い販売網により木曽こだわり商品の情報発信に大きく貢献していただいておりますことを深く感謝申し上げます。

15 年前の４月、当時 3,300 人（現在 2,600 人）程の木曽川源流の小さな木祖村は、木

曽川上下流交流を推進する目的から、下流域の中心地である大都会の名古屋市に出張所を設けました。出張所は名古屋市南区にある株式会社スミ設備の社屋を一部間借りし活動拠点といたしました。当時、株式会社スミ設備の社員の皆様に本当にお世話になったこと今でも忘れることは出来ません。あの時のスミ設備社員皆様の協力があったからこそ交流事業が活発化し、現在の木祖村があるものだと確信しております。

第６回木曽川流域集会＆源流フォーラムでの
圓中さん（一番右）＝2014 年 1 月、名古屋市中区

自治体が出張所を設ける目的は様々ありますが、当時は自動車産業の誘致が主流であり、交流事業を活性化する目的で出張所を設けた自治体はおそらく全国でも木祖村だけだったのではないのでしょうか？でもそのことが世間の脚光を浴び、出張所開設とともにテレビやラジオ、新聞各社のマスコミが事務所に押しかけました。相乗効果とはこの時のことでしょうか？長野県の小さな木祖村がこうしたマスコミ各社のおかげで、木曽川下流域の皆さんにこの情報が一気に伝わりました。出張所を開設した大きな効果が開設一か月で成し遂げられた感じがありました。観光情報の発信や地場産業（農業、木工業、製造業）の情報発信、移住対策対策等々、業務は多岐にわたりましたが、なんといっても大きな出来事は、出張所開設して半年で、名古屋市昭和区桜山町に木祖村アンテナショップを設けたことであります。これも人と人との縁により、お店が完成し、私共の木祖村観光協会が経営するお店として現在も存在しております。最近では下流域の皆様のご理解により木祖村の交流団体も増え、名古屋市、一宮市、日進市、尾張旭市、知多市、東海市、木曽岬町等々との自治体や民間団体と交流をしております。ここ数年はコロナ禍で停滞した年もございましたが、今年の活動を見るとコロナ禍前以上に交流事業も積極的に展開されています。

この 15 年の間、木曽川流域みん・みんの会の皆様には、木曽の大地にどっぷり浸かっていただき、やぶはら高原の白菜畑の横に、大豆づくり味噌づくりで畑の作付けや手入れ、収穫にお越しいただいていること本当にありがとうございます。決して楽な仕事ではないのに 13 年間続けて取り組んでくださっていること、木曽のブランド作りを自らの身体を張って取り組んでいる皆さんに脱帽であり感謝感激です。これから先も末永く続けてほしい訳でありますが、会員の皆さんも毎年、高齢化してきていますので、無理のない範囲でのご活躍をお願いします。

これからの木曽川上下流交流を目指す上で、最近特に感じることがございます。私自身高齢化してきていることもありますが、「キーマン」となる交流事業担い手育成を図ることです。なにもしなければそのまま衰退していくだけであり、上下流交流事業も消滅してしまいます。上流と下流がそれぞれを理解し、お互いを支え合う社会の構築が必要であると考えます。今、自治体間では流域連携が囁かれておりますが、こうした中にも夢中になるキーマンが必要であると考えます。大きな流域連携組織づくりの中で木曽川

流域みん・みんの会皆様が、こうしたキーマンになるべく姿を期待しております。私も上流域の一員として、上下流交流を推進する一人として、今後も頑張って活躍して参りますので、今後ともご支援よろしくお願いします。

木曽川源流の木祖村で始めた社会貢献からSDGｓへ

鷲見　康雄（株式会社スミ設備代表取締役）

みん・みんの会15周年おめでとうございます。このような記念すべき時に、紙面上ではありますがお話しさせて頂き、大変恐縮しております。本来ならば2008年の会発足から携わらせて頂いておりました、私の父・鷲見利幸がお話しすべきところではありますが、自分で始めた社会貢献活動を志半ばにして、2015年に他界しました。今回はその父の思いを受け継ぎ、今も進化し続けている社会貢献活動などをご紹介させて頂きます。

第４回木曽川流域集会であいさつする鷲見利幸さん
＝2011年１月、名古屋市千種区

弊社は戦後間もない1946年に、私の祖父・鷲見米吉が満州出兵から帰国後、名古屋市南区に水道工事店を創業し、1959年伊勢湾台風で甚大な「水」害にあった地元地域で、無償で「水」道修理に回ったのがスミ設備の地域貢献・社会貢献の始まりです。1977年に株式会社となり、現在のスミ設備の土台は二代目・鷲見利幸が築き上げました。

愛知万博が開催された2005年に、木祖村の小学生のホームステイを引き受けた事をきっかけに木祖村との交流が始まり、2007年から植樹活動を始め、これが本格的な社会貢献行動の開始となりました。名古屋の美味しい水は木曽川から。その木曽川の「水」源は、正しく木曽川源流の村・木祖村です。その木祖村が過疎化で困っている事を知り、父は即座に動きました。弊社のような中小企業が、持続可能な社会貢献活動として、最初に始めた事が植樹であり、昨今のＳＤＧｓの理念に繋がる活動となりました。

夏はキャンプ、冬はスキー、それ以外は閑散とする時期がある村に、下流域の人々が村に足を運び、お金を落とす方法を考えたところ、木祖村を紅葉の名所にするために、楓の木を植樹し始めました。それから村の特産物のＰＲの為、名古屋市南区の弊社内に木祖村の出張所を開設し、昭和区の桜山にアンテナショップを開設するお手伝いをさせて頂き、お中元にはとうもろこしを、お歳暮には御嶽白菜を多くの人に配り、村の木曽檜で作った箸を手配りするなど、木祖村の魅力を下流域の人々に伝える地道な努力を重ねました。

2013年に社長になった私は、偉大な父の背中を見て、同じ事をしても、上手く出来ないと開き直り、城で例えるなら、父が作った石垣に今の時代にあった強固で生活し易い、今風の城を作ろうと決心しました。

まず活動範囲を広げるため、2014 年にベトナムに赴き、技能実習生の面接を実行し、翌年から実習生を雇い始めました。初めて訪れたベトナムで水道工事に携わる者として一番衝撃を受けたのは、「水」の供給方法で、水道本管がまだ完全な状態では整備されていないため、水圧が低く水質も悪い状況でした。例えば、水道水で洗濯をすると白いシャツが鉄分で黄色に染まります。更には技能実習生が日本企業に配属するまでに、寝泊まりしながら学ぶ宿舎では、冬でもシャワーは水しか出ない過酷な環境にさらされていました。そんなベトナムに美味しい水を供給できる仕事に、いつか自分も携わりたいという思いから、2018 年にハノイ駐在所を作り、活動拠点を広げていき、本格的にスミ設備のＳＤＧｓをスタートしました。

地球環境・地域環境に配慮しながら、企業が生き生きと活動出来るには何をすべきか？「全ての人々の水と衛生の利用可能性と、接続可能な管理を確保する」事をメインに、今まで弊社がやってきた事と新しく始める事を融合させていく為、独自に改革宣言し、社員全員のベクトルを合わせました。

新たな活動としてはコロナ渦の中、2021 年よりテレビ愛知で毎週「水」曜日にＣＭを開始し、2023 年からは、そのＴＶＣＭで木祖村の観光地を紹介しています。

以上、ここ５年で様々なチャレンジをして、僅かではありますが改革を起こしていると自負しております。そして全てに「水」がキーワードとなっています。これからも水を通して社会貢献活動が継続できるように引き続き時代に合った方法で活発に活動していきたいと思っております。それには皆様のご理解・ご協力あってこそです。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「上下流交流の取り組み」～下流域に安心安全な水を届けるために～

竹原広樹（木曽広域連合地域振興課）

「木曽路はすべて山の中である」これは小説「夜明け前」（著：島崎藤村（旧木曽郡山口村出身））の冒頭です。この一節が示す通り木曽川上流域である木曽地域は総面積のうち約９割を森林が占めており、名古屋市を始めとする中京圏の皆様が使用している水の一部はこれら木曽地域の森林から生まれ、木曽川（愛知用水）を通じて送り届けられています。

私たち木曽広域連合は木曽川下流域の皆様のもとへ安心安全で綺麗な水を恒久的にお届けするために、水源地保全及び森林整備の重要性に関する啓発活動を行っています。今回はその一環として名古屋市科学館で行っているワークショップについてご紹介させていただきます。

「水源の里基金」を活用して木曽青峰高校インテリア科の生徒達による名古屋市科学館への木製玩具寄贈を契機に、2019年度から木曽檜のチップを蒸留しアロマオイルを抽出する実験を行っています＝写真。

これは小学生とその保護者を対象に開

催しているもので、実験が始まると会場内はまるで山の中にいるような爽やかな檜の匂いに包まれ、参加者の皆さんは笑顔で楽しまれているのがとても印象的です。

実験を通じて五感で木を感じてもらいながら、木曽川を通じた名古屋市との歴史的な繋がりや水の故郷である木曽地域の森林が果たす役割、その重要性についてお伝えしています。

また、木曽地域の主産業である林業や木工関連産業に携わる方にも協力していただき、普段どのような活動をしているのか現場の声もお届けしています。

このような取り組みを通じて、上下流双方の住民による交流の機会を創出するとともに森林が持つ公益的な機能（水源涵養や二酸化炭素の吸収等）や森林整備のサイクル（植樹→育樹→伐採→利用）について理解を深めていただけるよう努めているところです。

今後の展望として、諸先輩方が築き上げてきた上下流交流の関係性やヒト・モノ・ココロの繋がりを高校生や大学生といった次世代を担う方達に継承していけるよう上下流双方の官民が一体となって取り組まなければならないと考えています。

最後に河崎さんを始めとするみん・みんの会の皆様との繋がりは私にとってかけがいのない財産です。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の合言葉のように、互いを思いやる気持ちを忘れずに、微力ではありますが今後もご一緒に取り組ませていただく所存です。

出会いと交流を～いきいき今池お祭りウィーク～

2023 年 9 月 17 日、18 日(月、祝)、今池大バザール西南エリアにて木曽広域連合地域振興課の方々とともに、白菜やナ

ス、ジャガイモ、ニンジンなど木祖村の野菜、開田高原のトウモロコシ、木祖村にあるみん・みんの会の畑で採れた枝豆、流域連携の味噌「みなもと」、木曽青峰高校森林環境科ビジネスコース２年生８人が「清内路かぼちゃ」を使って作った「かぼちゃボーロ」の販売を行いました＝写真。

コロナ禍の影響も少しずつ回復し、予定通り二日間の開催となりました。

ブースの位置が少し変わって例年と勝手が違い、戸惑いもありましたが販売予定の品は、ほぼ完売となりました。味噌「みなもと」は二日分の販売予定数が初日で売り切れ、一日目のみとなってしましました。

今池まつりではトウモロコシや木曽の野菜、味噌「みなもと」を目当てに訪れる方々がいます。ありがたいことです。この今池まつりの取り組みの収益は「木曽川流域水源の里基金」に積み立てられます。　　（事務局・近藤）

天候に異変、大豆の収穫に影響

10 月 21、22 日木祖村の畑にて大豆の収穫を行いました＝写真。

例年になく草が多く大豆の畝の間にも草が多い状態です。例年は気温も下がり畝の草は小さいのですが今年は草取りが十分にできなかったこともあることと思いますが気温も高めが続いたこともあるかもしれません。

大豆はまだ十分に枯れてはいませんでしたが、夏の高温の影響か、実りが少し遅れていているようです。ここ数年同じ傾向が続いています。あちこちに大豆の粒がこぼれているのですが結構形の良い粒が落ちていました。

予断は禁物ですが、去年よりは収量は良いかもしれません。殻たたきが楽しみです。かぼちゃも土手にできました。ジャンボ落花生も上々。ポップコーンは久々にたくさん収穫できました。今まで獣害で何度も収穫ゼロでしたから楽しみです。

殻たたきは 11 月 12 日、13 日。天候に恵まれて終えることができました。（近藤）

女子高校生４人と木製玩具づくりの現場で交流…楽しみ！

今年度も「水源の里基金」を活用して、長野県木曽青峰高校インテリア科３年生４人の女子生徒の皆さんに、地元の間伐材でベンチや木製玩具の制作を依頼しています。９月 15 日に、名古屋市科学館学芸員の山田さんと一緒に同校を訪問して、山下先生と共に４人と作品づくりへの想いを聞き、取り組み状況を見学しながら交流してきました＝写真。その場に、木曽広域連合地域振興課の竹原さんにも加わっていただきました。

来年の２月下旬に名古屋市科学館で、作品の贈呈式を行う予定です。作品づくりを見た私たちの感想は「今回も新しい発想で作られています。２月に、どのような作品に仕上がっているのか、大いに楽しみ！」でした。（かわさき）

「同じ釜の飯を食べる」一体感が奏でる最高峰のアンサンブル

唐沢　尚之（小池糀店）

今年で 49 回目の木曽音楽祭が８月 24 日（木）～27 日（日）に行なわれました。50年前にクラシックの音楽会を聴く機会がなかった木曽の山の中で始まって、今では夏のイベントでは欠かせなくなりました。今年も日本の一流の音楽家が集まり、日本の最高峰のアンサンブルが奏でられました。最終日には大入り袋も出る

賑わいでした。

木曽音楽祭の特徴は何といっても演奏

木曽駒高原に響く美しいアルプホルン

家の人達の食事をボランティアの木曽のおばちゃんたちが作って振舞うことです。「同じ釜の飯を食べる」ではないですが、一体感が生まれてきます。「美味しいねー」とか当たり前の会話が今年もありました。私もボランティアに参加したこともあり、演奏家と地元の人がとても距離が近くて、これがいいハーモニーを作り上げているんだなーと改めて感じました。

人と人の繋がりでできている音楽祭も来年で５０回を迎えます。近年ボランティア不足などたくさんの問題があります。集客も大きな問題です。この素晴らしい音楽祭をどうやってPRして、どうやってたくさんの人に関わってもらうか、なかなか難しい課題はあります。

先日 10 月 31 日に、ＮＨＫ・ＦＭのベストオブクラシックで木曽音楽祭が放送されました。本当に素晴らしい演奏で、改めていつまでも木曽の山の中で聴ければいいなぁと思いました。

１万２千人の来場者で賑わった木曽の手仕事市

夏の終わり９月９日（土)、10 日（日）に木曽の手仕事市がありました。町の空き店舗等を利用して、町を歩いてもらいながらクラフトマンの作品を見てもらえるイベントです。今年はＪＲの爽やかウォーキングも同日に開催したこともあり、12,000 人の来場者がありました。爽やかウォーキングでは「発酵の町」をＰＲして蔵見学をしながら、クラフト展を楽しむ人で大賑わいでした。

この手仕事市には、上松町の地域おこし協力隊や木曽青峰高校インテリア科のブース＝写真＝もあって、そこには若い人びとの作品が数多く並べられていました。

１日目の夜は木曽の手仕事市の特徴でもある出展者と実行委員会のボランティアとの交流会がありました。コロナ禍になってここ数年化できなかったのですが、地元の食材等を使った料理を食べながら、すごく盛り上がりました。会の最後には恒例の全員で木曽踊りを踊り、本当の交流が出来たと思っています。様々な人と人のつながりを感じられる、木曽の夏のイベントでした。

（小池糀店・唐沢尚之）

～すんき漬け作り体験ツアー30 人、木曽町・小池糀店にご来店～

11 月 12 日に木曽の伝統発酵食品のすんき漬け(塩を使わないで乳酸菌でカブの葉を漬ける）の体験ツアーの 30 名ほど方々が当店の味噌玉、糀室を見学にいらっしゃいました。東京農大名誉教授の岡田早苗先生の解説の元、今年最後の仕込みだった味噌玉を興味津々に直で見て、匂いをかいでいってくれました。　また、11 月 25、26 日には、岐阜県恵那市の恵那文化センターで開催される「全国醗酵サミット in 恵那」に当店も出店いたします。味噌玉製法による味噌も販売します。約２万人もの来場を予定しているイベントです。ぜひお越しください。会場でお会いするのを楽しみにしています。（小池糀店・唐沢裕之）

15 年のご支援･ご協力に深く感謝申し上げます

みん・みんの会ニュース 19 号、20 号をみん・みんの会 15 周年記念号として発行しました。四方八洲雄さん（元綾部市長)、原久仁男さん（木曽町長)、茶畑和也さん（イラストレーター)、花崎皐平さん（さっぽろ自由学校「遊」、哲学者)、小田切徳美さん（明治大学農学部教授)、渡邉昇さん（飛水食品・七宗町)、纐纈美千世さん（日本消費者連盟)、斎藤まことさん（前名古屋市議・わっぱの会)、圃中登志彦さん（木祖村観光協会専務理事)、鷲見康雄さん（スミ設備代表取締役)、竹原広樹さん（木曽広域連合地域振興課)、11 人の皆様から私たちの取り組みについて、あたたかい励ましや課題提起、提言などの文書を寄せていただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

私たちの原点は「水の恵み」への感謝です。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」を合言葉に、感謝の気持ちを“かたち”にする取り組みを行なってきました。「持続」をめぐって私たちの会は「曲がり角」に来ています。“人が動き、モノが動き、ココロが動いて”私たち同士、そして上下流の人びとの関係が積み重なっていくことが「持続」に不可欠であり、次世代につながっていくことと考えています。「原点」から、上流の人びととのつながりや自然・生態系とのふれあいの中で“幸せの価値”を発見し、感謝することを目指していきます。今後とも、よろしくお願いします。　　2023 年 11 月 19 日　みん・みんの会　河﨑典夫

水源の里を守ろう　木曽川流域みん・みんの会

共同代表：河﨑典夫、伊澤眞一　事務局長：近藤進　顧問：斎藤まこと

連絡先：〒464－0075　名古屋市千種区内山３－７－11

TEL　090－4150－6156（近藤）　090－5618－7894（河﨑）

FAX　052－745－9558　mail:suigennosato@gmail.com